

フランス革命との共通点に見る 習近平体制の改革の行方

フランス革命について論じた思想家の本に影響を受けた習国家主席は、改革と革命の関係をどう考えるのか。

呉 軍華

(日本総合研究所理事 (ワシントン駐在))

習近平は一体、中国をどの方向に導こうとしているのか。先日、米民主党関係者が中心のある会合に向かった。中国経済を議論するはずであったが、話はおっぱら習近平国家主席に集中した。

文化大革命の時に社会の底辺で青春時代を過ごし、毛沢東路線の限界を分かっているはずの習近平は、最高指導者に就任してから、なぜ毛沢東時代の再来をほうつつするような政策を続々と打ち出してきたのか。また、腐敗撲滅キャンペーンを大方の予想を超えて深く広く推し進め、腐敗問題の解決に強い決意を示している一方、なぜ言論統制を大きく強化し、公務員の所得公開を求める人まで取り締まってしまったのか——もろもろであった。

現体制の改革は避けられない

習近平体制の下での政策の流れを振り返ると、論理的につじつまが合わないようなところがあるのは事実である。なぜこのようなことが起きたのか。現時点において習近平の胸中を解明できる確かな方法はないが、習近平を含む中国のトップレベルの指導者に大きな影響を与えたといわれるフランスの政治思想家、アレクシス・トクヴィルが1856年に著した『旧体制と大革命』という本から、その答えにつながるようなヒントを見つけてみよう。

もともと歴史学者や政治学者のような専門家しか関心を持っていなかった『旧体制と大革命』が、習近平体制発足の2012年前後に突如、中国の政・財界やインテリ層で大きく脚光を浴びるようになった。

習近平の両腕役の李克強首相と王岐山・中央規律検査委員会書記が、ともに周辺に強く薦めたのがその契機であり、習近平自身もこの本を熟読したと言われる。本で描かれた革命前夜のフランスの状況が、ほぼそのまま中国の現状に置き換えることができるために、習近平体制の下での中国の針路をめぐって「革命か改革か」という二者

択一的な議論が一時大きく盛り上がった。

最高指導者に就任した12年末から13年初にかけて、習近平が「憲法に基づいて国を治めよう」と訴えたり、「権力を制度の籠に取り込めよう」と主張したりしていたために、政治改革に向けての機運が高まった。しかしその後、憲政批判キャンペーンや異見者弾圧、言論統制の強化など、政治運営が改革でない方向に切られた。

そのため、習近平指導部は「悪い政府にとって最も危険なのは、国を良くしようと改革した時だ」という、トクヴィルがフランス革命の勃発要因として取り上げた論断をそのまま受け入れ、改革をせずに現体制を最後まで維持しようと決意したのではないが、との見方が広がった。

ちなみに、この本に以上のような論述があるのは事実だが、タイトルに象徴される通り、著者の主な関心はあくまで旧体制と大革命の関係にあり、トクヴィルが最も主張したのは、革命を醸成したのが旧体制そのものであり旧体制を改めない限り革命が避けられない、ということであった。

現時点では、この本と政治運営をするに当たった習近平指導部のアプローチの間に、どのような因果関係があったかは確かではない。しかし、中国社会の実態に照らして改めて読み直すと、習近平がこの本から執政のヒントを得ようとするなら、少なくとも当面の間、民主化に向けての改革に踏み切ることがちゅうちゅうすることになる。2000年以上に及んだ専制統治によって、トクヴィルがリストアップした革命を引き起こしかねない要件（中央集権の下で



地方幹部の前で演説する習近平国家主席（手前、北京で1月12日）新華社=共同

の行政の専制化や腐敗・特権に対する民衆の不満の急上昇など）が、現在の中国にはほぼ出そろっているからである。

中国ではかねて、共産党にとって「改革找死、不改革等死」、つまり改革をすれば自ら体制の崩壊を招き、改革をしなければ体制の崩壊を待つことになる、という言葉がはやっている。習近平指導部は少なくとも現時点において「改革找死」という道を歩まないで決意したのは確かであろう。

もっとも、トクヴィルが本で述べたように、革命と専制体制の悪循環を断つため、いずれ専制体制に対して抜本的な改革を進めるほかなく、また「不改革等死」という言葉に示される通り、改革をしないことによって短期的に革命を避けることができるものの、中長期的視点から中国社会の安定を図るに当たっては、現体制に対する改革はいずれ避けて通れない。

習近平は果たして、フランス革命から中国社会の中長期的安定を達成するに当たったヒントを得ることができるのか。毛沢東の政治手法の取り入れを含む強い政治統制によって腐敗の蔓延に歯止めをかけ、共産党に対する国民の信頼をある程度取り戻した時、政治家としての習近平にとっての本格的な挑戦が訪れてくるのであろう。